



●年代や場所等の詳細は不明だが、明治～大正期に撮影された写真。別は大勢の施主が写る写真もあり、こちらは石工や大工などの職人集団の写真

■「むかしは加工専門の石屋を、切りかた石屋と言つて、うちでも原石を仕入れて手加工でつくつていました。タタキの作業場にふいごが置いてあつて、毎朝道具をつくつてね。原石は店の前の堀川を使って舟で運んでいましたね。いまま船着場の名残が見られますよ」

同社は古くから寺社建築が得意で、全国の文化財クラスの仕事も数多く手がけています。それだけの責任を「礎」の名は背負っています。

「特に寺社建築では、石は基礎として上に組まれる木を守るもの。石工事がダメなら宮大工が苦勞します。まさに一番大事な仕事で、永久に残るのが石の仕事です。日本の伝統建築の基礎です」  
六代目はそう話してくれました。

# 『京の石をかたる』

京都府石材業協同組合・創立一〇〇周年記念誌

大正年代  
記念碑の建立風景



■今回は特別に京都府石材業協同組合にもご協力いただきました。同組合は、明治二五年に前身の京都市石材商工組合（聖徳会）が設立し、平成三年に一〇〇周年を迎えました。それを記念して発行された『京の石をかたる』には、『京の石の歴史が貴重な写真や図画とともに紹介されています。今回はその中の一部をお借りして掲載しました。』



●上段は大正年代に撮影された記念碑建立の写真。下段は北野天満宮大鳥居の石材を二条駅より運搬するようす（大鳥居は大正10年建立）



●現在の芳村石材店店舗  
目の前を流れる堀川の川岸には船着場の名残があり、往古を偲ばせる



●清水寺境内石工事・狛犬像  
大正13年に境内の石工事と狛犬台座を納めたが、戦時中に真鍮製の狛犬を徴収されるとすぐに石材で復元した



●琵琶湖疏水石工事  
三代目茂右衛門は京都の産業振興の動力源となった琵琶湖疏水の建設にも参加した。写真は明治23年につくられた疏水門



●『都の魁』  
明治16年10月、京都の商工名鑑ともいふべき『都の魁』に芳村石材店の店頭風景画が掲載された（冒頭の画像参照）

■石茂・(株)芳村石材店  
京都市上京区東堀川通樺木町上る5・208  
電話075・211・2711  
<http://www.kyoto-ishiya.com>



●『京の石をかたる』  
京都府石材業協同組合が組合創立100周年を記念して発行した記念誌。貴重な歴史を収録している

■京都府石材業協同組合  
京都市上京区東堀川通丸太町上る  
電話075・256・2955



「石屋・原風景」の写真提供・取材協力については、次ページをご覧ください。